



導入から約12年 保険適応疾患も拡大 手術支援ロボット「ダビンチ」による 手術件数が2,000症例に到達

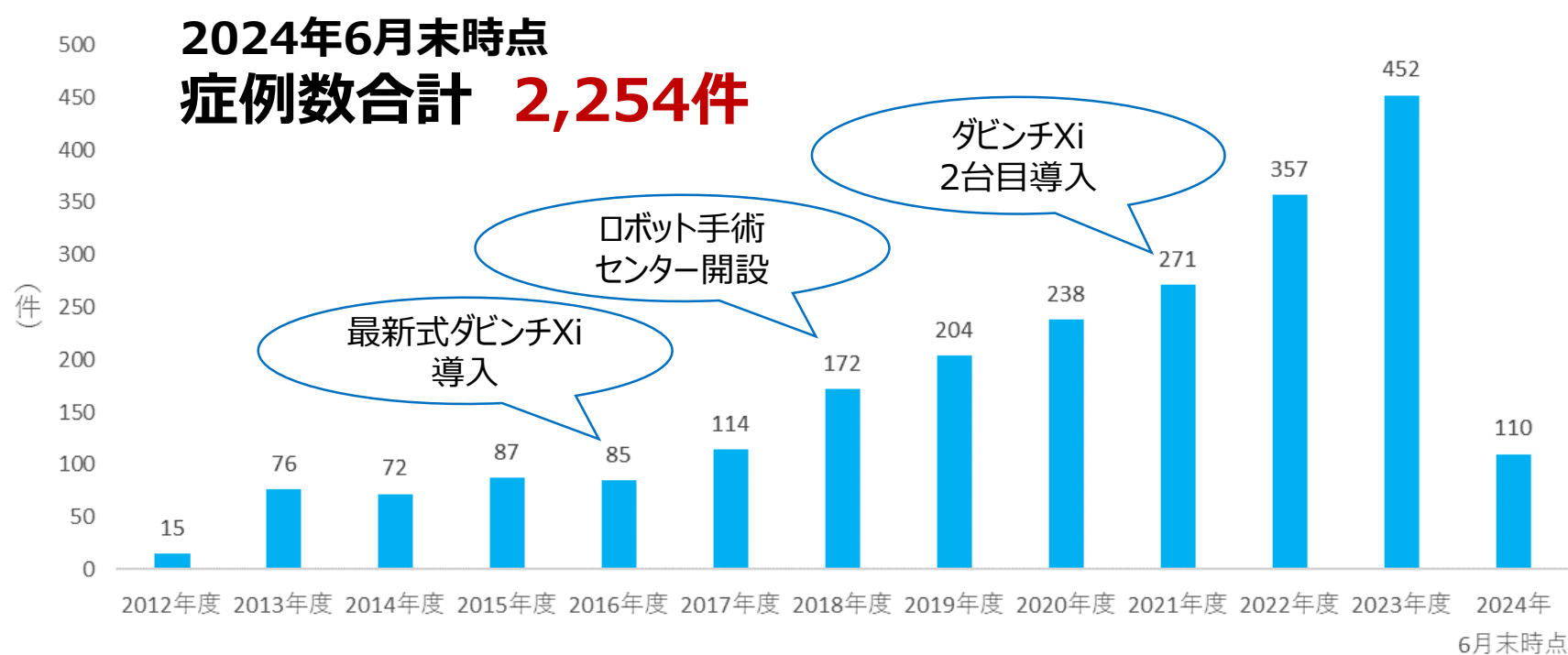
社会福祉法人恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院（神奈川県横浜市、以下、当院）は、2023年12末時点で手術支援ロボット「ダビンチ」による手術件数が2,000件に到達しました。

東部病院におけるロボット支援手術

ロボット支援手術とは、腹腔鏡・胸腔鏡（内視鏡）手術の一種で、医師がロボットを操作して行う手術のことをいいます。

当院は、2012年に横浜で初めて手術支援ロボットである「ダビンチ」を導入しました。2016年には県内で初めて最新式のダビンチXiにバージョンアップ。2021年7月には2台目のダビンチXiを導入し、これまでに2,254件（2024年6月末時点）のロボット支援手術を実施してきました。

保険適応の拡大とともに、当院でも対象疾患は増えており、現在、泌尿器科、産婦人科、消化器外科、呼吸器外科の4領域でロボット支援手術を導入しており、19の術式を保険適用で受けられます。



ロボット手術センター長
石田 勝（いしだ まさる）
慶應義塾大2002年卒

東部病院では2012年にダビンチを導入して以来、ロボット支援手術の件数が年々増加しています。これまでに胸部・腹部の主要な手術は、ほとんどが手術支援ロボットで実施できるようになりました。ロボット支援手術は、従来の手術と比較して、手術の安全性が高まり、術後の合併症が少ないため回復が早く、早期の退院が可能となります。ロボット手術センターではダビンチを効率的に運用することに注力しており、ロボット支援手術を選んでも手術日が遅くなることはありません。より安全でより質の高い手術を提供できるよう、常に技術を磨いております。ロボット支援手術について、詳しくは担当の医師にご相談ください。

＜本件についてのお問い合わせ先＞
済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当：波多野、荒木
TEL：045-576-3000 Email：koho@tobu.saiseikai.or.jp